



モデル園に設置されたコンクリート製のトレリス(長野市で)

台風対策の切り札に

コンクリートの支え

JJA全農長野などは、リンゴの高密植矮化(わいか)栽培用の「コンクリート製トレリス(垣根状の支柱)」を考案した。県内で普及している単管パイプ製トレリスに比べて強度が高く、風に強いことが特徴。台風などでトレリスが倒壊する被害が生じていることを踏まえた。コンクリート製品の

全農長野などへ普及へ トレリス考案試験

JA全農長野などは、(長野市)と連携した取り組み。普及に向けて改善やコスト低減を進め、「早ければ2022年をめぐに普及を目指したい」(全農長野)としている。

高密植矮化栽培は、木の列間隔などを短くし、10cm当たり300本ほどまで本数を増やす。慣行

りしやすいことに加え、傾斜地での安全な作業に配慮したのも特徴だ。重心を低くすることで、傾斜地でもぐらつかない設計とした。コンテナは、垂直方向に動く新たな仕組みとし、重心移動が少なく転倒リスクを減らせ

菊川市に本社を置く落合刃物工業は、「コンテナ式乗用型摘採機」を発表した。同社の担当者は「傾斜地に園地がある中小規模向き。経験が浅い作業者の不安を減らしたい」と比べて運転席を低くした最新機種「OHC-5DVBI」を説明した。

女性や高齢者が乗り降りしやすいことに加え、傾斜地での安全な作業に配慮したのも特徴だ。重心を低くすることで、傾斜地でもぐらつかない設計とした。コンテナは、垂直方向に動く新たな仕組みとし、重心移動が少なく転倒リスクを減らせ



▶落合刃物工業の「OHC-5DVBI」で、▼カワサキ機工の「GT-N-Matcha」(同県掛川市で)



但分

題だった。
そこで、全農長野は、高密植矮化栽培の先進地であるイタリアの事例を参考に、強度が高いコンクリート製のトレリスを考案。同社と共に、長野市内のモデル園に設置した。

コンクリートでできた長さ4m、縦・横10cmの支柱を、同じくコンクリートの基礎に50cm差し込んで固定する。基礎の深さは1.5倍とした。支柱は5cmの間隔で立てる。

モデル園を見学したJJA長野県高橋敦主任は「強度があるのは素晴らしい。現場の意見を反映し、コストが下がることを期待したい」と話す。

今後は県内各地にモデル園を増やし、改善を進める方針。設置コストは100万円以下を目指す。

高見澤コンクリート事業部の齊藤雄次次長は「素材やワイヤの位置などを検討し、強度と安全性を確保しつつ、コストを下げたい」と説明する。

モデル園を見学したJA長野県高橋敦主任は「強度があるのは素晴らしい。現場の意見を反映し、コストが下がることを期待したい」と話す。

た。操作盤は、デジタルディスプレーとし、刈りさせる「防除ナビ」を来場者に売り込んだ。

や、車速と散布量を連動して使ってもらいたい」と提案していた。

評価する新たな方法だ」と